

第1回 江戸川区立図書館基本計画検討委員会 議事録要旨

日時：令和5年7月21日（金）

午前10時00分～12時02分

場所：江戸川区立中央図書館 視聴覚ホール

1 開会

- ・岡部委員より挨拶。

2 事務局からの説明

(1) 検討委員会について

- ・検討委員会の趣旨を説明。

(2) スケジュールについて

- ・検討委員会の開催回数・日時及び計画策定までのスケジュールを確認。

3 委員紹介

- ・自己紹介方式にて実施。

4 委員長・副委員長選任

- ・委員の互選、承認により、委員長に大串委員、副委員長に藤田委員を選出。

（委員長・副委員長より挨拶）

5 報告

(1) 江戸川区立図書館の現状

- ・区立図書館の概要、各種統計、区民世論調査結果等について白木委員より説明。

(2) 内部検討による「江戸川区立図書館が目指す姿と基本方針」の報告

- ・基本計画の土台として作成した報告書の概要について中島委員より説明。

(3) 参考) ユネスコ公共図書館宣言 2022 の概要、参考取組事例の概要

- ・ユネスコ公共図書館宣言 2022、参考取組事例の概要について白木委員より説明。

6 議事

(1) 今後求められる江戸川区立図書館（2030年の江戸川区立図書館像）

- ・委員による意見交換

<各委員の意見>

- 図書館の立地に課題がある中で、予約本自動受取機など、もう少し近いところで借りられる、返すことができる仕組みは、やっていただきたいとずっと思っていた。また、ボードゲームや楽器のスタジオ練習は共育プラザ、本は図書館と分かれているが、それが全部一緒になっていて、ボードゲームをやって気になったことについて、すぐ本を読めるような、子どもの興味の流れを止めずにやれる空間になると嬉しい。子どもの空間は、静かにしなければならないというより、笑い声、話し声があふれても大丈夫な空間になってほしい。フリーWi-Fiが使える持ち込んだパソコンで勉強や調べものができる空間があって、小中学校のタブレットを学校につなげているWi-Fiと同じアカウントで図書館からもつなげていいとなってくれれば、学校で出された宿題を、図書館に来て調べ提出するということができる。図書館に行けば通信料がかからず宿題などを提出できるようになれば、利用の仕方までいぶ変わってくるのではないか。
- 勉強をしようとしても家ではなかなか集中できない。ただ図書館に行っても、本を読みたいというより読まないといけない、脅迫されているような感覚が出てきて、集中力や読みたい気持ちがなくなってしまう。リラックスできる環境で本を読ませてもらえたらいいと思う。
- 息子が家で寝そべりながらずっと集中して漫画を読んでいる姿を見た。家だけではなく図書館の中に、形にこだわらず過ごせるスペースがあれば。大人も図書館に遊びに行こうという感覚で来られるような、楽しい場所になるとよい。
- 利用者を増やすためには、勉強するとか本を読むところというイメージが非常に強いと思うので、楽しいところ、いろいろなイベントがあって、友達とも遊べる、オープンスペースでごろごろしたり、そういうことができるところにして、そこから本に入っていけるようにしたらよいのではないか。本、勉強ではないイメージを植えていって、皆さんがフランクに来れるような、楽しみに来れるような感じから、本に入れるような形だと非常によいのではないかと思った。自分で興味を持たないと、図書館が何をやっているかあまり見えてこないところもあると思うので、子ども向けであれば近隣の学校に案内を配ったりなど、効果的な宣伝活動も考えていくとよいのではないか。
- 学校での子どもたちも、調べ学習をしていますが、お互いに情報交換をしていたりとか、友達と一緒にしゃべったりしながらやっている。ぜひ公共図書館もおしゃべりしても大丈夫な空間になっていくといい。中高生や大学生は、学習するのにカフェを使っている。近い空間ができると、もっと図書館を利用するようになるかもしれない。なかなか学校に通えない、登校できないお子さんがすごく増えてきていて、図書館を活用できるのではないか。ネット予約ができるなど、図書館でできることなどのPRを区報などで積極的にしたら、もしかしたら利用も増えるのかもしれない。
- 学校の教員をしていて、子どもに本を手にとらせるには、子どもの身近にどれだけ本があるかがポイントになると思っている。身近という意味は2種類あって、物理的な近さとアクセスの近さ。物理的な近さとしては、公共図書館の団体貸出を利用

して、図書室に行かなくても、学級の中に本がある状態を作れるのはすごくいい。ただ、月1回、教員が図書館に出向いて本を選ぶ必要があり負担感があるなど、少し改善されるといい部分がある。アクセスの近さとして、子どもが自分で主体的に読みたい本を選んで、触れられる環境があるといいと思っていて、子どもがタブレットから図書館をタップすると、おすすめ本、新着本とか、調べ学習に使える本が出てきて、そこで貸出を申し込めて、学校に届けていただけるようなシステムがあれば、もっと本を借りたり、本に触れられるのではないかな。

- 私の仲間は熟年だが、なんとなく居場所がないので、夏は涼しいし、冬はあったかいし、本を読みたくなれば読めるし、自分の持っていった本を読んでもいいしというようなことで、図書館に行っているという人は、けっこう思ったよりいる。
- 図書館でお世話になっているのは、DAISY 図書、日本中のボランティアの方が音読してくれる本で、楽しみにしている。自分が好きな路線を注文しているが、ときどきこういうのもあると送ってもらうと、目からウロコで楽しい。音楽会、映画会などのイベントにもっと参加できるとよい。また、いろいろなことができる方が、図書館でもっといろいろなことをやってくださると、子どもから大人まで、皆で図書館を利用する機会が増えるのではないかなと思う。
- 区民施設は申し込んだ方が使う。なごみの家はある一定の年齢以上の方が使う。世代を超えて集える場所があまりないので、図書館が皆が交流して楽しく集える場所になるといい。もし集える場所として部屋がいくつかあったら、デジタルデバインド対応として、例えばマイナンバーカードになっても、そういうことがちゃんとできない方もお年寄りではいると思う。そのような場合に、例えば何日かそこで、スマートフォンとかパソコン教室とか、そういったこともできるのではないかな。将来的に100%スマートフォン、ITに全員が親しんでということは無理な話なので、できない、あるいは縁遠い人に対してフォローしていくような体制ができるとよい。
- 少し気になることは、ちらしがいっぱいあるが、ずっと入ったまま。うまい見せ方はないものかしらと思う。リサイクルの本がいっぱいあるが、保育園などにおはなし会に行くと、ぼろぼろの絵本を一生懸命読んでるので、リサイクルの本をうまく使えないかな。貸すために貼っているバーコードが、絵本を読む側からすると、なんでこんなところに貼るのという位置に貼ってある。難しいかもしれないが、少し考えていただけると嬉しい。年配の人は特に男性が多い。その人たちが、もっとうまく活動してもらえるようになればいいかなと思う。図書館で気に入った本などがあれば、図書館で申し込めば、書店から購入できるようになるとよい。大人と子どもの部分がちゃんと分かれているが、例えば絵本でも絶対大人向けだというものがある。そういう本の見せ方があればと思う。

(2) 区民意向調査の計画について（調査票案等）

- ・ 調査の概要、実施方法及びスケジュール、調査票案等について事務局より説明。

7 次回の予定

- ・次回の会議は9月8日（金）午後2時開催。会場は江戸川区立中央図書館 視聴覚ホールとする。

8 閉会



議事の様子

□委員構成

学識経験者	2名
書店関係者	1名
学校関係者	2名
地域関係者	4名
江戸川区民	4名
江戸川区職員	3名
図書館職員	2名

欠席 1名（江戸川区民）

□傍聴者 4名

□配付資料

【資料1】検討委員会設置要綱

【資料2】委員会スケジュールについて

【資料3】委員名簿

【資料4】江戸川区立図書館基本計画検討委員会（第1回）資料

【資料5】ユネスコ公共図書館宣言2022の概要、参考取組事例の概要

【資料6】「江戸川区立図書館に関する意向調査（アンケート）」調査票案

【参考資料1】ユネスコ公共図書館宣言2022

【参考資料2】事例調査シート